



安芸太田町教育21もみじプラン教育目標 「地球・世界的規模の視野を持ち、世界や地域社会に貢献する人づくりをめざす」										
ミッション 地域社会に貢献できる生徒の育成					ビジョン 主体的で協調的な学びの推進					
学校教育目標 学びを生き方につなぐ教育の創造 めざす生徒像 挑戦 感動 感謝の心をはぐくむ生徒					学校研究主題 深い学びを引き起こす授業づくり ～「知識構成型シグソー法」を取り入れた単元開発を通して～					
中期 経営目標	短期 経営目標	評価項目及び評価方法			評価基準	担当 分掌	中間 評価	最終 評価	達成状況及び改善策	評価委員の意見
学力の向上	学習意欲の向上と自主学習の充実	基礎的・基本的な知識・技能の定着	・生徒質問紙「なぜ学ぶのか自ら考える」の肯定的回答85%以上 ・自主学習60分以上の生徒85%以上	A: 80%以上 B: 60～80% C: 60%未満	教務 研究部	B		「なぜ学ぶのか自分で考える」の肯定的回答は89.2%。(令和元年度末: 75.7%) 自主学習60分以上の生徒は、平日59.5%、休日62.2%。 「なぜ学ぶのか」の自由記述では、漠然と「将来の役に立つ」という回答が多く、具体的なイメージが描けていない。教科の学習と生活とのつながりを意識した指導の工夫をするなど、自主学習につながる授業改善を行っていく。	「なぜ学ぶのか」を自覚している生徒が多いのは評価できる。自分の考えを表現することは学習意欲にもつながると思う。卒業生の話の聞いたり、自由討論の場を設定したりすることで、学ぶことの具体的なイメージを生徒にもたせたい。色々な事に興味を持って、学ぶ目的をその都度見付けていってほしい。 「新しい発見がある」、「今度はこうやってみよう」のように学ぶ楽しさを感じられる授業が「深い学び」につながっていくのではないかと思う。せめて休日の自主学習1時間は100%を期待する。学校だけの指導ではなく、保護者からの働きかけも必要だと思う。	
	協調学習の実践	深い学びを引き起こす授業の実践	・生徒質問紙「友だちの考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることで、学習内容の理解が深まる」の肯定的回答80%以上 ・各種学力調査で、すべての教科の平均正答率等が全国平均を上回っている。	A: 80%以上 B: 60～80% C: 60%未満				B	「友だちの考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることで、学習内容の理解が深まる」の肯定的回答は81.1%。 9月に全学年で実施した学力診断では、全学年15教科のうち8教科が全国平均を上回った。 協調学習の取組など対話的な学びをさらに充実させるとともに、自分の考えを論理的に相手に伝える表現力の育成に重点をおいていく。また、個別の学習支援を通して、全生徒の学力向上を図っていく。	グループ活動を通して、自分の考えを相手に伝えるなどといった対話は、学習内容の定着につながると思う。授業の中で、学びを深めたり、広げたりできる問いかけ(発問)の工夫を行ってほしい。 中学3年生が、安芸太田中学校での3年間でどのような力をつけてきたのかを検証していけるとよい。 自分の考えを相手に上手に伝える事は何年経っても難しい。少人数クラスの不利なところだと思うが、コミュニケーションは何歳になっても大事な事なので、今後とも継続した指導をお願いしたい。
社会に貢献する力の育成	自らの成長が実感できる	進路指導の充実及び進路実現に向かう意欲・態度の向上	・保護者質問紙「進路に関する情報提供」の肯定的回答率85%以上 ・充実感と向上心(i-check)の肯定的回答率85%以上	A: 80%以上 B: 60～80% C: 60%未満	生徒安全部	A		「進路に関する情報提供」の肯定的回答は96.7%。 充実感と向上心(i-check)の肯定的回答、1年生:87.5%、2年生:83.3%、3年生:85.0%。 広島県の公立高等学校の入学選抜制度改革を見通しながら、今後も進路に関する情報を積極的に発信していく。臨時休業による影響で「充実感と向上心」について心配はしていたが概ね満足できる状況である。引き続き、充実感と高い志をもてる教育活動を推進する。	公立高等学校の入学選抜制度改革に向け、各教科等で工夫がされていることは評価できる。 コロナ禍が長期化する中では、正しい情報の発信は必要だと思うので、引き続き積極的な情報発信に努めてほしい。 社会に貢献できる人間になるために、選択はたくさんあることを生徒に理解させ、視野を広げさせてほしい。 公立高等学校の入学選抜制度改革に対して不安に思う生徒や保護者がいると思われるので、しっかりとフォローをお願いしたい。	
	実践意欲の育成	自己肯定感の向上	・成功体験と自信(i-check)の肯定的回答率85%以上	A: 80%以上 B: 60～80% C: 60%未満				A	成功体験と自信(i-check)の肯定的回答、1年生:83.5%、2年生:76.3%、3年生:75.0%。 前期は新型コロナウイルス感染症対策のため、体育祭の延期や校外でのボランティア活動の自粛などもあり、成功体験と自信の肯定的回答が低い状況であった。今後、Withコロナの中でできる活動を取り組み、評価することで、生徒の自己肯定感を高めていく。	自己肯定感が全学年70%以上ということは素晴らしい。「新しい生活様式」で今までと違う生活が求められているが、できる範囲で成功体験を重ねていってほしい。 生徒の表情がどんどんよくなっているように感じる。ボランティア活動や生徒会活動、部活動など様々な教育活動を通して生徒は自信をつけていくと思う。 成功体験も大切だが、失敗の中から学ぶことも多いと思う。失敗の中から「打たれ強さ」といった雑草魂を身につけてほしい。 2、3年生の自己肯定感の向上については引き続き取り組んでいってほしい。
	地域貢献の意欲と態度の育成	地域貢献活動への参加	・社会参画(i-check)の肯定的回答率85%以上 ・地域貢献活動後の生徒の感想(肯定的記述)	A: 80%以上 B: 60～80% C: 60%未満				A	社会参画(i-check)の肯定的回答率、1年生:87.5%、2年生:79.4%、3年生:82.5%。 前期は新型コロナウイルス感染症対策も考慮し、地域の高齢者へのメッセージや脳トレ問題などの発信を行った。 新型コロナウイルス対策のため、昨年度に比べると地域貢献活動は少なく、そういったことが2・3年生の肯定的な回答の低さに出ていると思われる。今後、特別活動を中心に地域とのつながりを大切にした教育活動を工夫していく。	生徒が子供会活動にも積極的に参画をしており、地域の評価も高い。学業に支障がない程度で協力してほしい。 地域貢献活動は継続をすることによって、地域を大切に感じたり、自信につながったりしている。 コロナ禍で今までのように活動が出来なくても、元気な挨拶やプラスアルファの些細な声掛けが出来るだけで、地域は活力をもらえる。この事を続けていくだけで「自分は社会に貢献出来ているんだ」と感じてくると思う。また、そんな地域に溶け込んだ生徒達であってほしい。
信頼される学校をつくる	学校の公開性の向上	保護者・地域への教育公開及び情報発信の充実	・学校の情報発信に対する肯定的回答率90%以上 ・教職員「生徒と向き合う時間が確保できていると感じる」に対する肯定的回答率90%以上	A: 80%以上 B: 60～80% C: 60%未満	総務部	A		学校の情報発信に対する肯定的回答率100%。 「生徒と向き合う時間が確保できていると感じる」に対する肯定的回答率72.8%。 引き続き、学校通信や学年通信の充実、学校ホームページの定期的な更新を通して、情報発信を積極的に行う。生徒と向き合うことには、生徒と直接コミュニケーションをとること以外にも様々なことを意識していく。	ICTの活用といった先端技術を生かしつつ、日本の学校教育が大切にしてきた「知・徳・体」の育成といった普しい学校運営をお願いしたい。 ホームページを通して様々な情報を発信するだけでなく、生徒の学習支援などがされており、充実した取組になっていると思う。	